



師走

今年も残すところあと僅かとなりました。

毎年の事ながら何かと慌ただしく過ごしがちですが、改めて師走の意味と語源について調べてみました。

陰暦十二月の異称。語源については、この月になると家々で師(僧)を迎えて読経などの仏事を行うため、師が東西に忙しく走り回るため、「師馳(しは)せ月」といったのを誤ったものだとか、四時の果てる月だから「しはつ(四極)月」といったのが、「つ」と「す」の音(おん)通(つう)によって「しはす」となったのだとかの説が伝わる。このことばの持つ語感が、年の暮れの人事往来の慌ただしさと一致するためか、陽暦十二月の異称としても親しまれ、習慣的に用いられている、とあります。(日本大百科全書)

❖今年汚れ今年うちに

毎年この時期にテレビの某CMで流れてくる「今年汚れ今年う～ち～に！」と聞くと耳が痛くなる思いです。あれもこれとも思いながらもなかなかできずにはいますが、そんな時お役立ち情報満載なのが雑誌です。図書館には数多くの雑誌があります。掃除の仕方も年々進化？していて雑誌の情報は本当に助かります。一年の汚れを落とし気持ちよく新年を迎えたいですね。まだ一度も図書館を利用したことがない方は是非この機会に雑誌を借りてみてはいかがでしょうか。

❖我が家で見た絶景

先日テレビで「人生で一度は見たい世界の絶景」という番組を見ました。図書館にもこの様な本が沢山あります。「死ぬまでに行きたい！世界の絶景 日本編 詩歩著」、「日本列島花の絶景／洋泉社」、「絶景混浴秘境温泉 大黒敬太著」などなど。実際に出かけることができなくてもページをめくる度にワクワクします。田代図書館も窓から四季折々の景色が楽しめます。川の流れを見るとつい「あ～あ～川の流れのように～」と口ずさみたくなるのは私だけでしょうか。年代を感じさせますね、、、遠くにはなかなか出かけることはできないのですが、近場でも名所は沢山あります。そこで今年我が家で出かけた所を少しご紹介したいと思います。

一つ目にはかほ市象潟町の元滝(もとたき)伏流(ふくりゅう)水(すい)です。平成の名水百選にも選ばれていて、苔の緑色と水流の白色が作り出す幽玄な空間でとても神秘的です。駐車場からも徒歩15分位で行けるので山道と気負う程でもなく気軽に散策ができます。夏場の暑い時にマイナスイオンをたっぷり浴びてリフレッシュ

ユできます。

二つ目は山形県遊佐町の十六羅漢岩です。ここも～未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選(水産庁選定)～に選ばれています。吹浦海岸の岩礁に16の羅漢に、釈迦牟尼、文殊菩薩、普賢菩薩、観音、舍利仏、目連の三像を合わせて22体刻まれています。これだけの規模で岩礁に刻まれているのは日本海側ではここだけといわれ、歴史的にも貴重な資源だということです。何度か訪れているのですが全部見つけるのはとても難しいです。また日本海に沈む夕陽を見るのにも絶景のスポットです。

三つ目は青森県黒石市の中野もみじ山です。ここは紅葉の名所として有名です。駐車場からも近く(やはりこの点は重要ポイントですよ)、コンパクトに紅葉、滝、溪流が楽しめます。とにかく色鮮やかな赤、緑、黄色が混じりその山の間を流れる溪流とのコントラストが素晴らしく、京都の嵐山を連想させます。紅葉の期間中はライトアップされているので来年は防寒対策を万全にして夜に出かけてみたいと思います。

世界の絶景、日本の秘湯、世界遺産巡りなどなど、なかなか出かけられない方も本で旅を試みませんか。きっと素敵な出会いがあるはずです。(田代：久)